

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公印省略)

病害虫発生予察注意報について

平成 23 年度病害虫発生予察注意報第 1 号を発表したので送付します。

平成 23 年度病害虫発生予察注意報第 1 号

1 作物名 さとうきび

2 害虫名 イネヨトウ

3 発生地域 沖縄群島

4 注意報発令の根拠

- (1) 農業研究センター名護支所によって、5 月中旬に名護市天仁屋のさとうきび圃場でイネヨトウによる被害が確認された (図 1)。
- (2) 北部農林水産振興センター農業改良普及課によって、6 月上旬に伊是名村 (図 2)、6 月下旬に伊江村において本虫の被害圃場が確認された。
- (3) 発生の報告を受け被害状況を調査した結果、各地で本虫による被害が確認された (表 1)。
- (4) 北部地区さとうきび生産振興対策協議会から、名護市、東村、国頭村、今帰仁村、宜野座村について、一部圃場における被害の情報があつた。
- (5) 5 月下旬の中南部における巡回調査の結果、メイチュウ類による芯枯茎率は 3.9%であつた。

表 1. イネヨトウ被害調査の結果

調査月日	調査地域	被害茎率 (%)	調査茎数	発生圃場率 (%)	調査圃場数	作型	調査実施機関
6月15~16日	伊是名村	23.0	—	—	39	株出春植	北部農林水産振興センター農業改良普及課
6月22日	名護市	22.8	2,000	—	3	春植	農業研究センター名護支所
6月24日	うるま市	4.0	8,283	18.8	16	全作型	病害虫防除技術センター
6月28日	糸満市	5.8	1,872	5.7	35	全作型	病害虫防除技術センター

5 発生生態および被害

- (1) 初期被害は圃場周縁部で見られ、圃場内でスポット状や畝に沿って被害が拡大する。被害が集中的に起こるため、生育初期に加害されると坪枯れを起こすこともある（図3）。
- (2) 沖縄では年5～7世代を重ね、幼虫（図4）は5月と9～10月に発生が多い。
- (3) 卵は葉鞘の裏側に卵塊で産み付けられ、1雌当たりの生涯産卵数は400～700卵に達する。ふ化幼虫は集団で葉鞘内部を食害する。3～4齢になると他の茎に分散し、葉鞘の外側から孔を開けて食入し、生長点を加害して芯枯れを起こす（図5）。幼虫は5～7齢になるものもあり、老熟幼虫の体色は薄紫～ピンク色を帯びる。茎や葉鞘内で繭を作り蛹化する。

6 防除上注意すべき事項

- (1) 被害の小さい圃場においては、芯枯茎や萎ちようした茎を地際部より深く切り取り、幼虫を捕殺する。
- (2) 放棄及び被害圃場を放置すると本虫の発生源となるため、碎土等を行い放置しないように努める。
- (3) 圃場および周辺の除草を徹底する。
- (4) 多発すると防除が困難であることから、芯枯防止をねらって食入初期の幼虫を対象にした薬剤防除を行う。
- (5) 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する（図6）。粉剤の場合は、茎と葉元の間には散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- (6) 薬剤防除後、2～3週間をおいて再度防除を行うことで防除効果が高まる。
- (7) 薬剤散布の際は飛散（ドリフト）防止に努める。
- (8) 被害の多い地域では、薬剤による一斉防除を行う。
- (9) 平成23年度病害虫発生予察技術情報第1号参照（平成23年4月28日付）。



図1. 名護市天仁屋における被害圃場



図2. 伊是名村における被害圃場



図3. 圃場周縁部の被害



図4. イネヨトウ幼虫



図5. 芯枯れを起こしたさとうきび



図6. 葉鞘内へ十分に薬液を浸透させるために、鞘頭部から丁寧に散布する

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL : 098-886-3880、098-886-0227

ホームページアドレス : <http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=119>